

※注意点※

スター製OCXドライバーは使用出来ませんので、
新OCX Ver2.00を使用する必要があります。

【新OCXドライバー(Ver2.00)のインストール手順】

フォルダ内の『Install.bat』よりインストールを実施してください。

【IPアドレスの初期設定について】

工場出荷時のIPアドレスは『192.168.0.2』です。

192.168.1.*** など、ご利用いただくネットワーク環境のセグメントが異なる場合は、
設定ツール『DeviceInstaller』をご利用ください。

※IPアドレスを初期化する方法はありません。

DeviceInstaller ダウンロードサイト

<https://www.lantronix.com/products/deviceinstaller/>

※英語サイトのため翻訳機能をご利用をお勧め致します。



LANTRONIX

ソリューションとサービス ▼ 産業 ▼ サポートとリソース ▼ 私たちに関しては ▼

ホーム > 製品 > SaaS および強固なソリューション > インストールツール > デバイスインストーラー

デバイスインストーラー

Lantronix DeviceInstaller は、特定の Lantronix デバイスサーバー製品を簡単にインストールおよび構成する方法を提供する Windows ベースの GUI アプリケーションです。

DeviceInstaller を使用すると、次のことが可能になります。

- 適切なファームウェアをロードします
- IP およびその他のネットワーク固有のアドレスを割り当てる
- カスタム Web ページをロードする
- デバイスサーバーの Web ベースの構成を有効にする
- ネットワーク経由で接続されたデバイスに ping またはクエリを実行します
- デバイスとの Telnet 通信を許可します
- 特定のデバイスデータ ファイルを表示する

注: DST および APS 構成ユーティリティは、DeviceInstaller の一部になりました。

DeviceInstallerの最新バージョンをダウンロードします。

DeviceInstallerの最新バージョン

 tech_supportが所有 ...
最終更新日: 2021 年 10 月 27 日、作成者: Kevin Page • 2分で読めます • レガシーエディタ

DeviceInstaller の最新バージョンは何ですか？

DeviceInstaller の現在のバージョンは4.4.0.7です。以下の表の FTP または HTTP リンクをクリックして、セットアップアプリケーションとリリース ノートをダウンロードします。

製品	コメント
Windows 用 Web セットアップ アプリケーション (1.3 MB) - ZIP アーカイブ	インストールするにはインターネットアクセスが必要です
リリースノート	

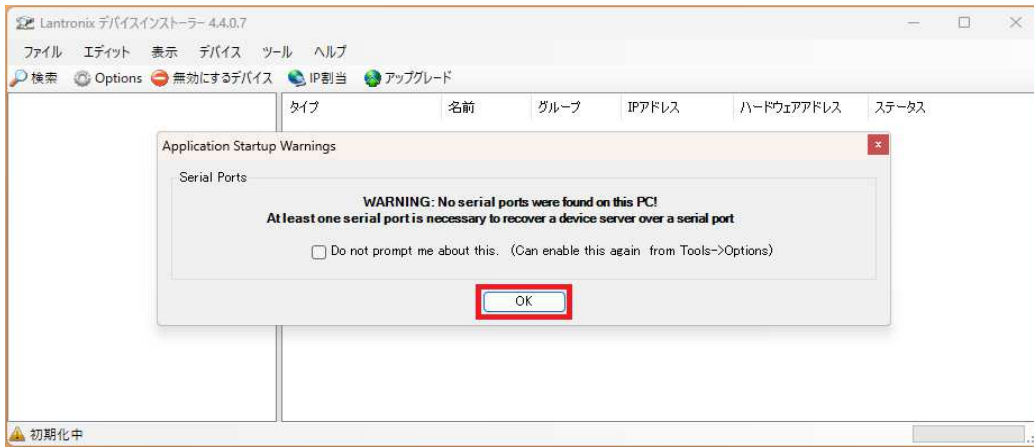
(要件は下記を参照してください)

※ダウンロードファイル：DeviceInstaller-4407-Web.zip

互換機の電源を入れ、

C:\Program Files\Lantronix\DeviceInstaller4.4 内の『DeviceInstaller.exe』を起動してください。

下記画面が表示されますので、『OK』を選択してください。



自動的に検索がかかり、デバイスが見つかると下記内容が表示されます。



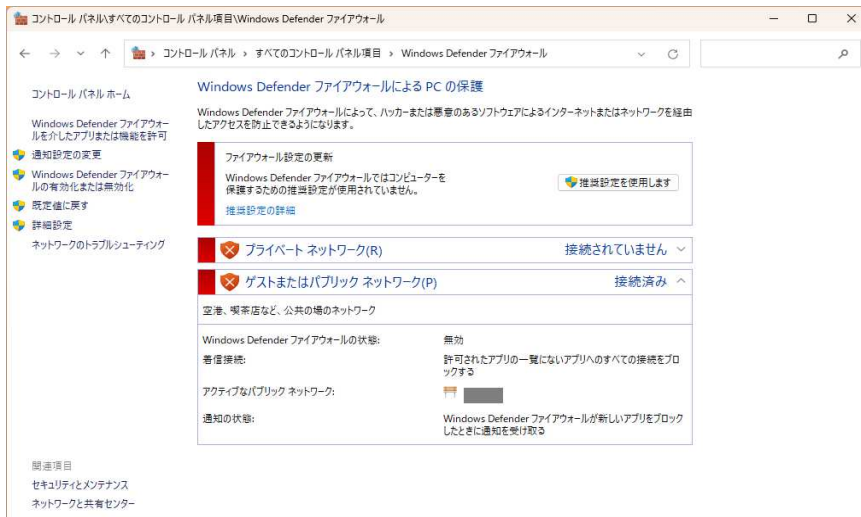
上記表記にならない場合（No Devices Were Found!の表記の場合）は、

Windowsファイアウォールの設定を無効化してからお試しください。

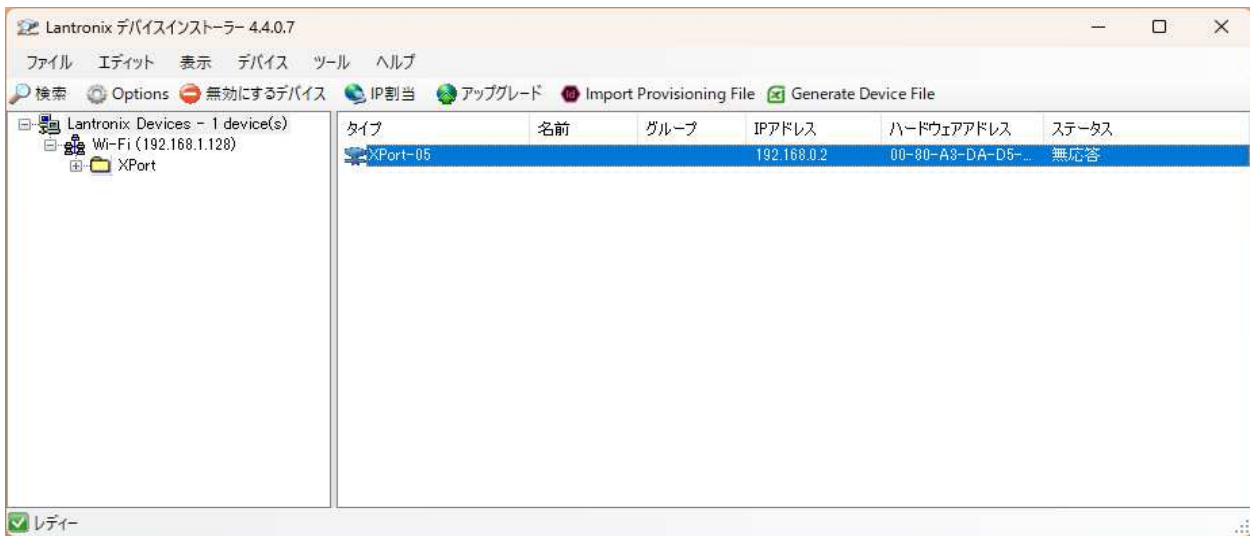
（コントロールパネル>Windows Defender ファイアウォール>

左側メニューの『Windows Defender ファイアウォールの有効化または無効化』を選択>

『Windows Defender ファイアウォールを無効にする（推奨されません）』にチェック）



XPort-05 を選択し、『IP割当』を選択してください。



下記割画面が表示されますので、『特定IPアドレスの割当』を選択し、『次へ』を選択してください。



ご利用のネットワーク環境内と同じセグメントのIPアドレスを入力し、『次へ』を選択してください。

※この時点ではサブネットマスクとデフォルトゲートウェイの設定は出来ません。

後述のwebブラウザからのログインで設定が可能です。



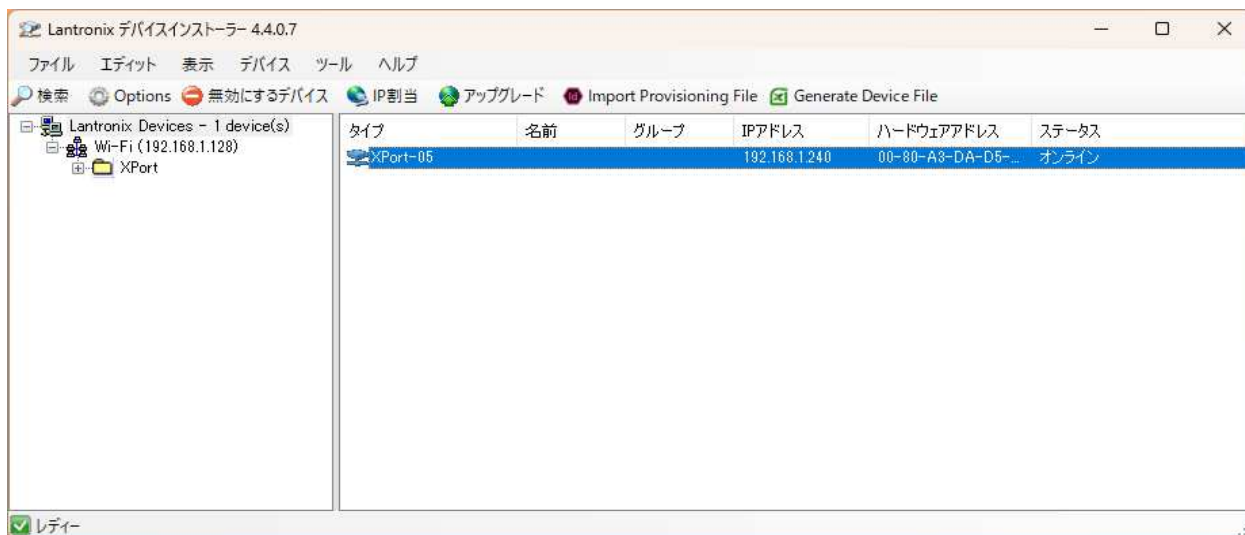
『割当』→を選択いただくことで設定した値に変更されます。
タスクが完了次第『終了』を選択してください。



→



デバイスインストーラーの表記が設定したIPアドレスの値になっていれば成功です。

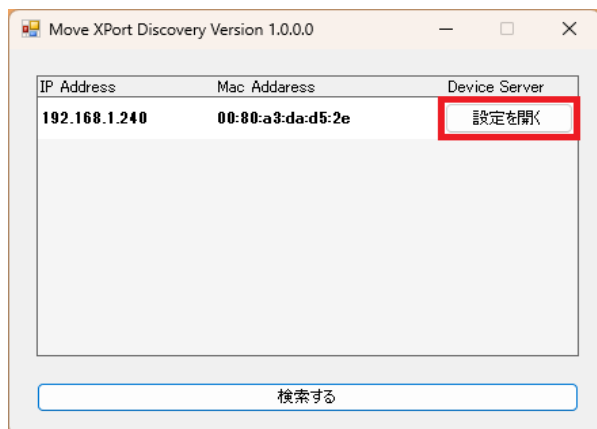


【IPアドレスの固定手順】 *) 同一セグメントの場合は、ここから

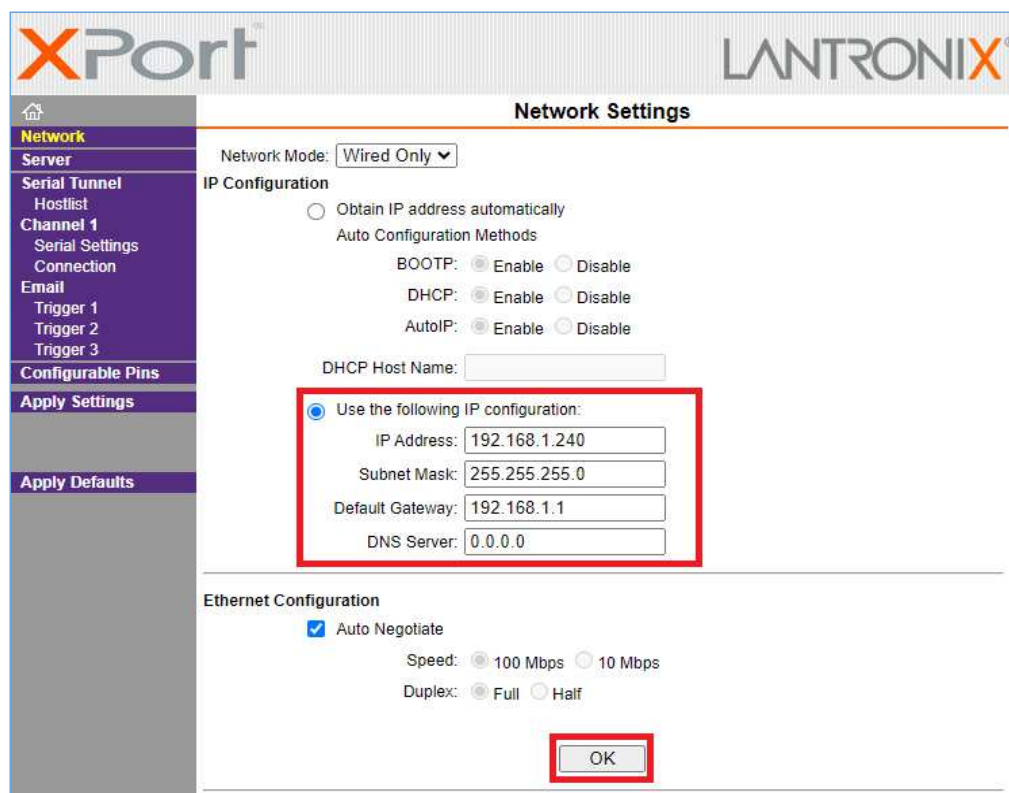
1. MOVE RewriteCard Control Ver2.00 フォルダ内の『XPortDiscovery.exe』を実行してください。

2. 『検索する』ボタンをクリック後、IPアドレスとMACアドレスが表示されます。

※グレイアウト中は確認中のため黒い表示になってから『設定を開く』をクリックしてください。



3. 左側メニューの『Network』を選択し、『Use the following IP configuration』の欄に固定したいIPアドレスを入れ、『OK』をクリックしてください。



- 4.左側メニューの『Serial Settings』を選択し、Baud Rateの値が『9600』になっていることを確認してください。
 値が異なっている場合は、9600にしてOKボタンを押してください。
 ※互換機の内部的な仕様で通信速度9600以外は動作しません。

XPort LANTRONIX

Serial Settings

Channel 1

Disable Serial Port

Port Settings

Protocol: RS232 Flow Control: None

Baud Rate: 9600 Data Bits: 8 Parity: None Stop Bits: 1

Pack Control

Enable Packing

Idle Gap Time: 12 msec

Match 2 Byte Sequence: Yes No Send Frame Immediate: Yes No

Match Bytes: 0x 00 0x 00 (Hex) Send Trailing Bytes: None One Two

Flush Mode

Flush Input Buffer

With Active Connect: Yes No

With Passive Connect: Yes No

At Time of Disconnect: Yes No

Flush Output Buffer

With Active Connect: Yes No

With Passive Connect: Yes No

At Time of Disconnect: Yes No

OK

- 5.左側メニューの『Apply Settings』を選択すると自動的に更新が走ります。
 数秒後に設定後の値が表示されます。

XPort LANTRONIX

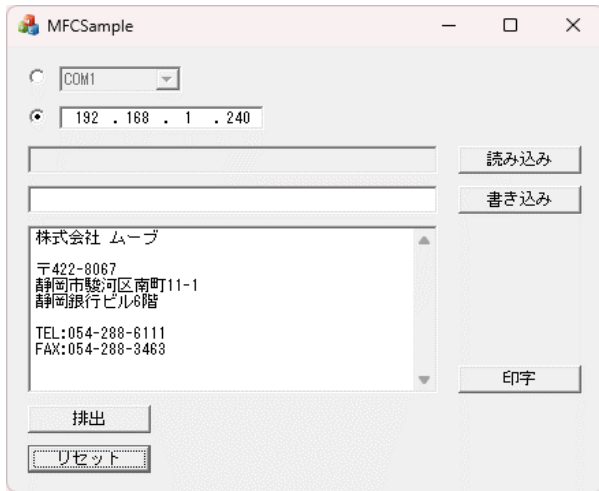
Device Status

Product Information	
Firmware Version:	V6.10.0.3
Build Date:	29-Dec-2017
Network Settings	
MAC Address:	00-80-A3-DA-D5-2E
Network Mode:	Wired
DHCP HostName:	< None >
IP Address:	192.168.1.240
Default Gateway:	192.168.1.1
DNS Server:	0.0.0.0
MTU:	1400
Line settings	
Line 1:	RS232, 9600, 8, None, 1, None.

6.動作テスト

MOVE RewriteCard Control Ver2.00 フォルダ内の『MFCSample.exe』を実行してください。

設定したIPアドレスの値を入力し、『リセット』をクリックして互換機が動作すれば通信確認完了です。



印字をしたい場合は『印字』ボタンを押してカード挿入すれば印字されます。

※時期書き込みの場合、カードは自動排出されませんので『排出』を選択してください。

まだ動作NGの場合は、以下もご確認ください。

XPortから

1. Connectionから、ポート番号を10001番以外に設定（適用）
2. Apply Defaultsを実施（適用）
3. Connectionから、ConnectProtocolがTCPサーバーモードであるか？ 違うならTCPサーバーモードに変更
4. ポート番号を確認し10001番であるか？ 違うなら10001番に変更
5. ApplyDefaultsを実施（適用）